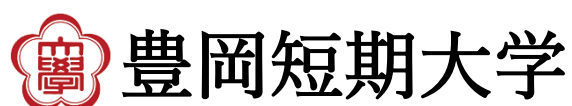


令和6年度  
教職課程  
自己点検・評価報告書

令和7年9月



## 豊岡短期大学 教職課程認定学科（免許校種）一覧

- ・こども学科 幼稚園教諭二種免許

### 短期大学としての全体評価

豊岡短期大学は、「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」の建学の精神のもと、人間は自然のなかで他の生命とともに生かされているという認識をもち、他人や自然を思いやる豊かな人間性と創造性に培われたいわゆる「共生の心」を備えた人材の育成を教育理念としている。

豊岡短期大学は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を修得するこども学科のみの単科の短期大学であるので、建学の精神のもと定めた「共生の心」を備えた人材育成とした教育理念がすなわち、豊岡短期大学の保育者養成が希求し、育成を目指す保育者像となる。この保育者像を達成するため、共生の心を培う、他人を思いやる心を培う、創造性を培う、豊かな人間性を培う、異文化を理解しうる力を培うという 5 つの教育目標を掲げている。これらの建学の精神・教育理念・教育目標に基づき豊岡短期大学では、「三つの方針」（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）と保育者として必要な知識・技能を身に付けるための「学修成果」を定め、「三つの方針」、「学修成果」をもとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成している。

学長のもと教授会をトップとして下部に委員会を設置している。委員会は、カリキュラム等検討委員会、教学評価委員会、教務委員会、教育改善実施（FD）委員会、学生指導委員会、進路指導・編入委員会、紀要委員会、研究倫理委員会、自己点検・評価委員会、職務改善・推進（SD）委員会など 24 委員会を設置し、教員、職員全員が必ずどこかの委員会に所属している。各委員会は、中長期計画に基づいて策定した目標に対して PDCA を実施しながら、毎年度委員会として成果を積み重ねている。この各委員会の PDCA による改善シートを自己点検・評価委員会が検証し、学内組織が活動することで、一貫した方針に基づいた点検・評価を行っている。それら点検・評価に加え、「学修成果及び教育効果の検証に関する方針（アセスメントポリシー）」に基づき、「三つの方針」にそれぞれ照らして、学修成果・教育効果の検証を行い、その結果をもとに必要となる改善をカリキュラムマップ、カリキュラムツリーや学習指導、学生指導に反映している。

このように全教職員の活動の積み重ねが、保育者としての知識と技能に裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出すことにつながり、そのことを達成することが豊岡短期大学の責務であると考えている。

豊岡短期大学

学長 室谷 雅美

## 目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	5
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	13
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	17
III	総合評価	20
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	20

## I 教職課程の現状及び特色

## 1 教職課程の現状

(1) 大学名：豊岡短期大学

(2) 所在地：兵庫県豊岡市戸牧 160 番地（豊岡キャンパス）

兵庫県姫路市大塩町 2042 番 2（姫路キャンパス）

(3) 教職課程の履修者数及び教員数

## ①教職課程の履修者数

こども学科（通学課程）

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1 年	2 年	3 年	4 年	
—	こども	—	幼稚園 2 種	44	34	—	—	78

こども学科（通信教育課程）

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1 年	2 年	3 年	4 年	
—	こども 幼児専攻	—	幼稚園 2 種	858	995	—	—	1,853
—	こども学 科 保育専攻	—	幼稚園 2 種	497	464	460	—	1,421

## ②教員数

こども学科（通学課程）

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日現在）

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	8	4	2	1	10
備考：「その他」は非常勤講師と 66 条の 6 科目教員と保育士養成課程教員					

こども学科（通信教育課程）幼児専攻

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日現在）

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	15	9	15	3	658
備考：通信教育部こども学科はこども学科と併設のため、通学課程と重複カウントしている教員がいます。「その他」は非常勤講師（保育専攻と合算）と 66 条の 6 科目教員と保育士養成課程教員					

こども学科（通信教育課程）保育専攻

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日現在）

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	7	4	13	0	658
備考：通信教育部こども学科はこども学科と併設のため、通学課程と重複カウントしている教員がいます。「その他」は非常勤講師（幼児専攻と合算）と 66 条の 6 科目教員と保					

## 育士養成課程教員

## (4) 卒業者の現況

こども学科（通学課程）

令和6年度卒業生

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
—	幼稚園 2種	12	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—

こども学科（通信教育課程）幼児専攻

令和6年度卒業生

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
—	幼稚園 2種	45	4	132	10	—	—	—	—	—	—	—	—

こども学科（通信教育課程）保育専攻

令和6年度卒業生

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
—	幼稚園 2種	18	1	25	3	—	—	—	—	—	—	—	—

## 2 特色

## (1) 沿革

昭和42年	1月	近畿大学豊岡女子短期大学（家政科）設置認可
44年	3月	近畿大学豊岡女子短期大学通信教育部（家政科）設置認可
46年	1月	近畿大学豊岡女子短期大学（幼児教育科）設置認可
47年	1月	近畿大学豊岡女子短期大学通信教育部（幼児教育科）設置認可
48年	1月	近畿大学豊岡女子短期大学（児童教育学科）設置認可
48年	3月	幼児教育科廃止
55年	2月	近畿大学豊岡女子短期大学児童教育研究所附属幼稚園設置認可
61年	10月	家政科を家政学科に名称変更
平成元年	4月	近畿大学豊岡女子短期大学を近畿大学豊岡短期大学に名称変更
		近畿大学豊岡女子短期大学児童教育研究所附属幼稚園を

		近畿大学豊岡短期大学児童教育研究所附属幼稚園に名称変更
3年	4月	家政学科を生活情報学科、児童教育学科を幼児教育学科に名称変更
4年	3月	児童教育研究所附属幼稚園を附属幼稚園に名称変更
4年	4月	通信教育部家政学科を通信教育部生活情報学科に名称変更
		通信教育部幼児教育科を通信教育部幼児教育学科に名称変更
13年	4月	生活情報学科を生活情報・福祉学科に名称変更
		通信教育部生活情報学科を通信教育部生活情報・福祉学科に名称変更
14年	4月	近畿大学豊岡短期大学通信教育部社会福祉士養成通信課程開設
17年	4月	幼児教育学科をこども学科に名称変更
		通信教育部幼児教育学科を通信教育部こども学科に名称変更
19年	4月	生活情報・福祉学科学生募集停止
20年	3月	生活情報・福祉学科廃止
24年	3月	通信教育部生活情報・福祉学科廃止
28年	4月	近畿大学豊岡短期大学を豊岡短期大学に名称変更
31年	4月	豊岡短期大学 姫路キャンパス開設

豊岡短期大学は、昭和42年の近畿大学豊岡女子短期大学の創立を始まりとする歴史と伝統を有する短期大学である。

本学のルーツである近畿大学豊岡女子短期大学の誕生は、学校法人弘徳学園前理事長上田正一先生の「豊岡市への近畿大学誘致」の提案がきっかけとなって、地元豊岡市民の絶大な期待を背景にして、地方での女子教育の実現に情熱を燃やされた初代近畿大学総長世耕弘一先生の英断により実現された。以来、本学は、時代の変化とニーズに応じて、通信教育の設立、校名変更や学科改組を行い、平成28年には、校名を豊岡短期大学へと変更し現在に至っている。平成31年3月までは、兵庫県豊岡市の豊岡キャンパスのみであったが、姫路キャンパスの開設に伴い2つのキャンパスとなった。50年以上にわたり培ってきた本学の“強み”を今後も活かし、地域に根差した魅力ある大学づくりを行い、安定した学生の獲得に努める。

豊岡短期大学は、近畿大学創設者の世耕弘一先生が説かれた「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」を建学の精神とし、「共生の心」という教育理念のもとに、自然や人を思いやる豊かな人間性に富んだ人材の育成という目標を達成すべく保育・幼児教育のため、本学独自の実践重視のプログラムを導入している。

幼稚園教諭や保育士の免許・資格の取得に必要な保育者として相応しい知識やスキルの修得はいうまでもなく、教職課程科目に加えて本学独自科目、「弘徳豊岡教育」「キャリアアップ」等を開講し、マナーやコミュニケーション力等、人間性の養成をも視野に入れた授業を実施している。また、特別研究では＜保育×〇〇分野＞というテーマで「心理」「ミュージック」「読み聞かせ」等の保育・幼児教育に関する専門的分野を1年生・2年

生合同の少人数でゼミナール形式の授業を行い、保育者に求められる資質・能力を高める授業を展開している。補習授業である「フォローアップセミナー」ではピアノ奏法、公務員試験対策講座等を実施している。

## (2) 教育目標

### <教育目標>

1. 人間は人間だけで生きているのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を培う
2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を培う
3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を培う
4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身に付けるとともに、豊かな人間性を培う
5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を培う

本学では、他人を思いやり、社会に対する深い洞察力があり、自然・環境に対して優しい姿勢を持ち、正しい歴史観や世界に広く開かれた視野を備えた人材、いわゆる「共生の心」を備えた人材を育成することを目的としている。「共生の心」を備えた人材を育成するための教育目標は、教育基本法第一条「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」、そして、第二条「教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする」の五項目とも合致したものである。そのため、本学の建学の精神及び教育目標は、教育基本法に基づいた公共性を有しているといえる。

## II 基準領域ごとの自己点検評価

### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

##### 【現状】

(1) 教育活動等を実施する上での基本方針

上記の教育目標に基づき、三つの方針、すなわちディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）、アドミッションポリシー（入学者受入方針）を定めている。三つの方針の一つであるカリキュラムポリシーに基づき、「総合科目」、「教科専門科目」及び「教職専門科目」からなる体系的なカリキュラムを編成している。授業概要（シラバス）作成の際には、教務委員会が中心となり学修成果等の点検を行い、全学的に教育目標の達成に向けた取り組みを進めている。

本学のディプロマポリシーは、次の通り定めている。

##### ◆ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）について

学位：短期大学士（幼児教育学）

本学は「建学の精神」と「教育目標」に基づいて、保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出すことに努めています。卒業認定にあたっては厳正に成績評価を行い、学則に規定する所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位授与します。

ディプロマポリシーにある「保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出す」ことを実現するために、カリキュラムポリシーを定めている。このカリキュラムポリシーにより、「総合科目」と「専門教育科目」からなるカリキュラムを編成・実施しているため、本学のカリキュラムはディプロマポリシーに対応したものとなっている。

本学のカリキュラムポリシーは、次の通り定めている。

##### ◆カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）について

本学は「建学の精神」と「教育目標」を実現するために「総合科目」と「専門教育科目」により保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備えた人材を育成するカリキュラムを提供します。

1. 入学者の基礎学力の確認及び支援を図ります。また、「総合科目」の充実したカリキュラム展開により教養を備えた学生を育成します。
2. キャリア教育を展開し、マナーやコミュニケーション能力、基本的な倫理観、表現力を養います。
3. 「専門教育科目」においては、保育者としての知識と技能をより高め、社会の多様なニーズに対応できる学識と良識とを備えるためのカリキュラム編成をします。



4. 「専門教育科目」においては、地域社会との連携を図りながら多彩なカリキュラムを展開し、保育者としての理解を深め認識するとともに人間性を養うことに努めます。
5. ボランティア活動の活性化を図り、学生が体験による学びを積極的に展開できるよう努めます。

本学では、教育目標に基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを一体的に定め、適切に入学者を受け入れている。

本学のアドミッションポリシーは、次の通り定めている。

◆アドミッションポリシー（入学受入方針）について

本学は「建学の精神」と「教育目標」とに共感する入学者を国内外から広く受け入れます。

1. 将来の目標を持っている人
2. 本学が求める基礎的な知識・技能を備えている人
3. 自己の探求ができるとともに、謙虚に学ぶ姿勢を有する人
4. 専門職を通して、社会に貢献したいと考える人

本学は、教育目標を達成し、保育者に必要な知識・技能として修得すべき学修成果を次の通り定めている。

◆学修成果

保育者として必要な知識・技能を身に付ける。

1. 専門的学修成果

- ① 保育者としてこどもの教育・保育環境をつくることができる。
- ② 一人ひとりの特性や発達の課題に即した支援ができる。
- ③ こどもの主体的な活動やこどもにふさわしい生活・遊びを展開できる。
- ④ 保護者や地域との連携を図れる能力を育成する。

2. 教養的学修成果

- ① 社会人・職業人として求められるマナーや姿勢、コミュニケーション能力を獲得できる。
- ② 社会人・職業人として責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己表現、他者理解及び自己管理の能力を育成する。

本学はこども学科単科の短期大学であり、こども学科全体が「幼稚園教諭二種免許状」の教職課程となっている。このため、本学の教育目標及び学修成果は教職課程教育の目標と一致している。このことは、教職員に広く周知しており、それらを常に意識しながら、日々の教育活動を行っている。

こども学科では、建学の精神及び教育理念はホームページ（資料1-1-1）で公表するとともに、大学案内（資料1-1-2）や入学受入要項（資料1-1-3）にも掲載

し、オープンキャンパス、高等学校への訪問、入学説明会などで入学希望者、その保護者や高等学校教員等へ広く周知している。また、建学の精神及び教育理念を明示した学生便覧（資料1-1-4）を配付するとともに、前・後期のオリエンテーションをはじめ、授業や各行事などで学長や教員の説明により周知している。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、建学の精神及び教育理念を入学要項（資料1-1-5）、学習便覧（資料1-1-6）、授業概要（シラバス）（資料1-1-7）、年6回隔月発刊している機関誌「豊梅（ほうばい）」（資料1-1-8）やスクーリングのしおり（資料1-1-9）などの各印刷物へ掲載し、周知を図っている。また、建学の精神、教育理念及び学習の進め方に関する新入生オリエンテーションを対面あるいはオンラインにて全国各地で実施している。

### 【優れた取組】

本学の教職課程の特色は、ディプロマポリシーが「保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出すこと」であるため、こども学科の方針が教職課程の方針と一致していることにある。このため教職員はもとより、学生にも本学の方針が理解しやすいことが優れた点である。

本学では各科目に具体的な学修成果を定めており、それぞれが専門的学修成果、教養的学修成果のいずれかに対応し、その関係はカリキュラムマップ（資料1-1-10）に示している。カリキュラムマップを基にカリキュラムの連続性を視覚化したカリキュラムツリー（資料1-1-11）を整備している。これらの科目の単位を取得することにより、2年間の修業年限で上記の学修成果を満たすことができる。カリキュラムマップ、GPAやその他のさまざまな取り組みを一つにまとめ、学修成果を査定することで、より強力に内部質保証活動に活かし、教育の質を保証していくために、三つの方針を基盤とする評価指標を定めたアセスメントポリシー（資料1-1-12）を策定している。学修成果は、各科目の成績、授業評価アンケート、単位取得率、GPA、学位取得率、退学率、学生満足度調査、学修行動調査、短期大学基準協会による短期大学生調査、免許・資格取得率、免許・資格を活かした専門職への就職率、各実習先からの評価、卒業生への卒業時及び3年ごとの就職先へのアンケート調査をまとめた勤務状況調査の結果を、アセスメントポリシーに基づいて取りまとめることにより、測定することが可能である。

各部署（教務学生課、通信教育事務課、図書館、総務課、管理課、経理・財務課）、常設委員会及び関連規定に基づく委員会が、PDCAサイクルを用いた改善シート（資料1-1-13）を作成し、教育活動や日常業務に従事する中で、定期的な自己点検・評価を試みている。各教職員は、1つ以上の委員会に所属しているため、教職員全員が自己点検・評価活動に関与している。このPDCAサイクルを用いた改善シートにより、前年

度の検証を基に当該年度に取り組むべき課題を示し、その課題に対して取り組み、活動を検証し、次年度の課題を引き継ぐことを一連の流れとして繰り返し、自主的・自立的な改善活動を継続的に行っている。

#### 【改善の方向性・課題】

GPA 制度の導入やカリキュラムマップを基にしたカリキュラムツリーの整理、アセスメントポリシーの策定等、学生にとっても教職員にとっても、学修成果をより正確に把握する仕組みを整備している。これらは、学修成果を把握するためのツールであると同時に、自己点検・評価活動を推進するためのツールである。すなわち、各部署及び各委員会の PDCA 活動、教員による授業改善の PDCA 活動に、これらの新たなツールを追加し、内部質保証を推進していくことが必要である。そのために、それぞれのカリキュラムマップやアセスメントポリシーなどのツール自体を改善していかなければならない。また、それぞれのツールを扱う教職員の意識・知識も絶えずアップデートしていく必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

- 1-1-1 豊岡短期大学ホームページ <https://koutoku.ac.jp/toyooka/>
- 1-1-2 大学案内
- 1-1-3 入学者選抜要項
- 1-1-4 学生便覧
- 1-1-5 入学要項
- 1-1-6 学習便覧
- 1-1-7 授業概要（シラバス）
- 1-1-8 機関誌 豊梅（ほうばい）
- 1-1-9 スクーリングのしおり
- 1-1-10 カリキュラムマップ
- 1-1-11 カリキュラムツリー
- 1-1-12 アセスメントポリシー
- 1-1-13 PDCA サイクルシート

### 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

#### 【現状】

科目担当を選任する際には、教職課程認定基準を踏まえ、十分な研究業績を有する教員及び実務経験のある教員を厳選し配置している。また、教職課程の教員配置は、「領域に関する専門的事項」「教育の基礎的理解に関する科目等」にそれぞれ 3 名以上の専任教員を配置している。通信教育部こども学科保育専攻には 24 名以上、同幼児専攻には 40 名以

上の専任教員をそれぞれ配置している

教員と職員の協働体制として、各種委員会を教職員で構成している。前述のとおり、本学は単科の短期大学であり、こども学科全体が教職課程となっている。このため、カリキュラム等検討委員会、教学評価委員会、教務委員会、学務委員会にて教職課程の編成に関する全学的な方針の策定を行っている。教職センターとしての機能は、自己点検・評価委員会が担っており、教職課程の企画・運営、教員研修の実施、教員養成に関する研究による質向上に関して、教務委員会、教育改善実施（FD）委員会や教務学生課と教職協働を図っている。

教職課程教育を行う上での施設として、豊岡キャンパスは、6,869 m<sup>2</sup>の屋外グラウンドを有している。和花季会館（わがときほうる）内に多目的ホールとして437 m<sup>2</sup>を設置するなど、短期大学設置基準の必要校舎面積2,000 m<sup>2</sup>の基準を上回る8,330 m<sup>2</sup>の校舎となっている。校舎内には、大小の講義室8室、情報処理教室やピアノレッスン室等の演習室24室、小児栄養実習室やプレイルームの実験・実習室2室を整備している。姫路キャンパスは、併設する姫路大学の敷地内にあり、16,359 m<sup>2</sup>の屋外グラウンドを有している。体育館、情報処理室、音楽室、ピアノレッスン室、プレイルーム等の教室や演習室は姫路大学と共用している。

教職課程教育を行う上での設備として、豊岡キャンパスにピアノレッスン室を22室及び姫路キャンパスにピアノレッスン室を19室とML教室（ミュージックラボラトリー）を1室整備し、それぞれのピアノレッスン室にグランドピアノやアップライトピアノ等を配置している。これらのピアノは専門業者によるピアノの調律及びメンテナンスを毎年度行っている。また、情報処理機器は、学生が自由に利用できるパソコンとして、豊岡キャンパス30台、姫路キャンパス62台を設置し、科目担当者や委託業者が毎月メンテナンスをしている。情報処理機器は、外部からのウイルス侵入対策ソフトを導入するとともに、緊急事態には委託業者による遠隔操作で対応している。豊岡キャンパスの図書館面積は362 m<sup>2</sup>、座席は63席、5万点以上の資料を有している。姫路大学と共用である姫路キャンパスの図書館面積は、389 m<sup>2</sup>、4万5千点以上の資料を有している。

本学の教職課程自己点検は、全学的な本学の内部質保証及び評価・点検を実施している自己点検・評価委員会が中心となり、組織的に実施している。

#### 【優れた取組】

教職課程教育に関わる科目の学修成果は、各授業科目との関連を示したカリキュラムマップに整理し、カリキュラムマップを基にカリキュラムの連続性を視覚化したカリキュラムツリーに示している。また、教職課程における学修成果を明確にするためカリキュラムマップ・ツリーと連携した科目ナンバリングを設定している。このカリキュラムマップ、GPAやその他のさまざまな取り組みを一つにまとめ、学修成果を査定することで、教育の質保証をしていくために、三つの方針を基盤とする評価指標を定

めたアセスメントポリシーを策定している。

学生による授業評価アンケート（資料1-2-1）は、前・後期末に実施しており、その内容を科目担当者にフィードバックし授業改善に活用している。このアンケートは、授業終了直後に行うことで、より高い回収率を保持している。各科目のアンケート集計結果は、科目担当者に通知するとともに、学生掲示板及びホームページで公表している。学生からの評価を取り入れた授業改善のため、授業評価アンケート結果の一部項目をPDCA 授業改善Cシート（資料1-2-2）に記し、学生の意見を踏まえた考察を科目担当者に求めている。このシートは、教育改善実施（FD）委員会が取りまとめている。授業内容について、科目担当者間での調整は、科目の各学修成果を明示したカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーをこども学科学科会議で配付することにより、各科目と学修成果の関連を明確にし、科目間のつながりを意識するよう求めている。

学生の学修成果、満足度等を可視化し、学生の学習支援や教学改革のエビデンスに活用することを目的に学修行動調査を実施している。この調査は、短期大学生調査と比較を行い、その検証結果をホームページで公表するとともに、アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証にも活用している。

令和6年度より教学評価委員会を設置し、本学の教育・研究の充実と活性化を図り、短期大学の使命を果たすため、教育・研究等の現況とその独自性について、3つのポリシーを踏まえた本学の適切性に関する点検及び評価を行っている。構成員として、法人格のある学外有識者を招聘し、本学の自己点検評価報告書やアセスメントポリシーの検証結果について、点検及び評価を実施している。

履修カルテについては、学生が目指す保育者像を踏まえながら、保育者に必要な資質・能力がどの程度身に付いているか、履修科目と結び付けて振り返るものである。これにより、学生は学修成果の獲得状況を確認し、目指す保育者像への到達に向けての課題をそれぞれが主体的に考え、2年間の学習に取り組んでいる。この自己評価シートの記入方法は、オリエンテーション時に説明を行い、「保育・教職実践演習（幼稚園）」の科目担当者が指導している。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、ルーブリック評価を導入している。通信教育部での学習方法は、主にテキストによる通信学習としている。このため、科目ごとに望まれる学修成果を授業概要（シラバス）だけで表現し、学生の理解を得ることは、通信教育の特性上難しい側面がある。そこで、レポートと科目試験により単位修得となる通信授業科目では、より学修成果を明確にするために、レポートのルーブリック評価票（資料1-2-3）及び科目試験のルーブリック評価票（資料1-2-4）を整備している。さらに、通信教育部では同一科目の担当教員を複数配置しているため、ルーブリック評価により、評価する際の公平性、客観性及び厳格性を担保している。このように、通信教育部はその学習の性格上また運営の制度上、ルーブリック評価による学修成果の明確化及び評価の公平性を担保することが必要であ

る。

建学の精神、教育理念「共生の心」、教育目標及び学修成果の理解は、教育の根幹を成すものと捉え、教職員は共通認識を持つべく、職務改善・推進（SD）委員会を設置し、全学研修会等により職務を充実させ、教育研究活動等を支援している。さらに、SD委員会の活動として、各部署に課内研修会の実施を依頼し、年度当初に各課の研修会実施計画を確認及び検討し、必要に応じて見直しを求めるとともに、年度末に研修会実施報告書により実施確認を行っている。令和6年度の全学研修会は「個人情報保護」をテーマに外部講師を招聘し、全教職員が参加した。各課の研修会は、次の通り実施した。

部 署	回 数	題 名
全学研修	1回	① 個人情報保護
教務学生課	2回	① 合理的配慮を要する学生への対応について（通信教育事務課・図書館事務課・サポート課合同） ② 幼稚園教諭免許課程、指定保育士養成施設について（通信合同研修）
通信教育事務課	13回	① スクリーニング業務について（総務課合同） ② 小学校2種免許の取得について ③ 入学説明会（こども）について ④ 入学説明会（社福）について ⑤ 新入生オリエンテーションについて ⑥ 大学設置基準、教職認定基準の改正について ⑦ 幼稚園教諭免許課程、指定保育士養成施設について（教務合同研修） ⑧ 高等教育修学支援制度について ⑨ 令和6年度入学者（社会福祉士養成通信課程）の入学状況及びその分析について ⑩ 令和6年度入学者（こども学科一般生）の入学状況及びその分析について（サポート校含む） ⑪ 個人情報保護について ⑫ 令和6年度私立大学通信教育協会研修会参加報告について ⑬ 合理的配慮を有する学生への対応について（教務学生課・図書館事務課・サポート課合同）
図書館	3回	① 蔵書点検について

		② 選書について ③ 合理的配慮を有する学生への対応について
総務課 管理課	12回	① スクリーニング業務について（通信合同） ② 私学法及び寄附行為の改正に伴う私学の対応1（オンデマンド） ③ 個人情報保護について ④ 私学法及び寄附行為の改正に伴う私学の対応2（オンデマンド） ⑤ 短期大学設置基準、教職課程認定基準の改正について ⑥ 非常勤講師の労働問題（オンデマンド） ⑦ 大学の防犯対策について（経理・財務課合同） ⑧ 非常勤講師の労働問題2（オンデマンド） ⑨ 科研費について ⑩ 個研について ⑪ ハラスメントについて ⑫ 決算書類の見方について（経理・財務課合同）
経理・財務課	3回	① 大学の防犯救急について（総務課・管理課合同） ② 定量分析について ③ 計算書類の見方について（総務課・管理課合同）

なお、課内の研修だけでなく、他の部局における研修に参加する機会（部局横断型研修）を設け、研修会の幅及び職員の知識の幅の向上、他の部局との連携・協力の強化を図っている。

FD活動として、参観者が自身の授業改善のためのヒントを得るとともに、授業者に対する助言を行うことも目的とした「公開授業」を実施した。また、FD研修として「魅力あるカリキュラムづくり」「今後の保育の展開」をテーマに外部講師を招聘し、講演いただくとともに、意見交換を行った。

#### 【改善の方向性・課題】

カリキュラムポリシーに基づく教育課程や各科目の関連性を精査するカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを継続的に検証することが必要である。

学習形態の性質上また運営の制度上の観点から、通信教育部ではすでに導入しているが、通学部でも成績評価の公平性、客観性及び厳格性をより一層担保するため、ルーブリック評価の導入に関して引き続き検討する必要がある。

教学評価委員会にて、まずは学外有識者に対し、本学の建学の精神、教育理念、教

育目標、学修成果、3つのポリシーやアセスメントポリシーによる建学の理念の説明の後に、自己点検評価報告書や教職自己点検報告書、アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証結果の説明を行った。本学の取り組みを評価していただくことが多数あった半面、学生の情報機器に関する操作向上のための組織的工夫や若者の都市部への転出を防止するためのインパクトのある広報計画等、多くの意見を頂戴した。その意見を自己点検・評価委員会にて検証し改善していく必要がある。

教職課程教育を行う上での施設設備は、大規模改修工事について、工事の細分化による単年度予算の計上金額を抑えた事業計画を計画し、豊岡キャンパス及びこのとり認定こども園おける電話機や交換機の入替を実施した。また、次年度に向け、豊岡キャンパス本館 GHP 空調設備改修工事、和花季ホールの天井落下防止対策工事、LED 入替工事の事業計画を提出している。

#### 【根拠となる資料・データ等】

- 1-2-1 授業評価アンケート
- 1-2-2 PDCA 授業改善 C シート
- 1-2-3 レポートループリック評価票
- 1-2-4 科目試験ループリック評価票

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

#### 【現状】

こども学科では、保育者を目指す本学の学生には、アドミッションポリシーで「本学が求める基礎的な知識・技能を備えている人」であることを求めている。そして、入学試験は、小論文、国語や英語の学科試験等により、文章による表現力と保育者になるための学習に必要な基礎学力が身に付いているかを把握・評価している。また、高等学校からの調査書の提出を必要としているため、これまでの課外活動、学習への取り組みや出席状況等の高等学校時代の学修成果を確認し、本学の学習に意欲的に取り組める学生を受け入れている。

入学予定者に対しては、入学前の段階で教職課程を履修するために必要な知識・技能として、一般常識問題やピアノ事前学習課題を課している。また、プレカレッジ（入学前教育）では、入学生同士の出会いを通じて交流する機会を持ち、短期大学生になる自覚を促すことにより、学習意欲を維持・向上できるよう大学教育への円滑な接続を図っている。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、アドミッションポリシーを入学要項に記載し、全国各地で行っている入学説明会等で周知を行い、本学の建学の精神及び教育目標に共感する入学者を受け入れている。入学予定者は、書類選考により選



考を行い、必要に応じ学生に対し、入学担当者より意思確認を行っている。入学後のオリエンテーション時にも本学の建学の精神、教育理念、教育目標を強く意識させる機会を設けている。

#### 【優れた取組】

こども学科では、Active Portal を活用することで、教職課程の履修状況を自身で確認することができる仕組みをとっている。オリエンテーション時に履修登録とともに利用方法の説明を行い、卒業要件や免許・資格要件に関する指導も行っている。幼稚園教諭免許取得希望者は、令和6年度入学生44名のうち、9割以上の学生が取得を希望している。

履修カルテの自己評価シートの記入方法は、オリエンテーション時に説明を行い、「保育・教職実践演習（幼稚園）」の科目担当者が指導している。また、特別研究では〈保育×〇〇分野〉というテーマで、「心理」「ICT」「伝統文化」「おもちゃ」「スポーツ」などの多様な分野と保育をつなげる体験型授業を開講し、こどもの未来をつくる大人として、魅力的な保育者を養成することを目的に実施している。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、学習サポートサイト「TtLeS（トトレス）」を活用することで教職課程の履修状況を随時確認できる仕組みをとっている。教職課程教育における進捗状況を確認し、教職履修指導を行う巡回相談会では、オンラインまたは教職員が全国各地に赴き、学生の自宅学習における不安を解消する一助となっている。なお、幼稚園教諭免許取得希望者は、こども学科と同様で9割以上の学生が取得を希望している。

#### 【改善の報告制・課題】

こども学科の履修カルテについて、Active Portal で管理・運用できるように設定している。履修カルテの円滑な実施・運営ができるように教務学生課が主体となって入力マニュアルを作成し、継続的に入力できる体制整備を行った。今後は学生や教職員が積極的に活用できるように、学生の学修成果を確認しながら教職課程教育に対する目的・目標の共有を進める必要がある。

### 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

#### 【現状】

こども学科では、職業や実生活に必要な力を身に付けるには、免許・資格に伴う学習だけでなく、保育現場でのさらなる対応力向上及び実生活に必要な力を養うことが求められる。そのために、本学独自の科目により、体験的な学習も取り入れながら幅広く学び、学生間、学生と教職員等のさまざまな人間関係に基づくコミュニケーション能力や課題解決力を向上させ、職業人として生きていく資質・能力の育成を図ってい

る。総合科目「キャリアアップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、教養教育として職業観等を高める科目である。これらの科目は、自己理解や他者理解、保育者としての自覚、時事問題に対する意識付けなどを含めた総合的な人間力の向上を図っている。また、保育者として必要な知識やスキルを身に付けるため、保育現場でのインターンシップを行い、子どもの成長発達を観察しながら、保育者としての関わり方を学んでいる。

幼稚園教諭二種免許及び保育士資格の取得は大きな目標であり、その取得に向けた学生の意欲が非常に高いため、令和5年度卒業生の取得率は95%となった。通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、いずれも9割以上の取得率となっている。

### 【優れた取組】

こども学科での就職支援は、教職員により構成する進路指導委員会（資料2-2-1）を設置し対応している。この委員会では、学生の就職内定を目指し、1年生及び2年生に進路ガイダンスを開催している。その主な内容は、「就職に向けての心構え」、「求められる人間像」、「就職活動の流れ」、「一般企業の就職に向けてやるべきこと」、「園や施設の選び方」、「面接の作法、履歴書の書き方」など多岐にわたっている。また、在学生への進路希望調査、就職先や卒業生へのアンケート、就職先への訪問等の活動を実施している。クラス担任と進路指導委員会は、入学時から定期的に行う進路希望調査により、学生が希望する進路を把握している。その上で、クラス担任は1年前期末及び2年前期末の三者面談により、保護者の意向も踏まえながら進路決定への支援をしている。

「豊岡短期大学 GPA に関する規程」に基づいて、学生の学修成果を査定し、学期 GPA の値が 1.5 未満の場合は、クラス担任が教務委員会及び教務学生課と連携し、次学期の履修登録までに指導・助言を行っている。また、学期 GPA が 1.0 未満の学生については退学勧告を行うこととなっている。さらに、GPA の平均値、最高値、最低値、標準偏差及び分布状況を分析することにより、学修成果の獲得状況が確認できている。

学生への情報提供は、相談スペースを備えた就職資料室と Active Portal の掲示板に幼稚園（認定こども園含む）、保育所、施設、一般企業別に求人票の概要を掲示し、求人内容の詳細は就職資料室と学内サーバー上で閲覧できるようにしている。就職資料室には、卒業生たちが実体験に基づき作成した就職試験内容報告書をファイリングし、備え付けている。この報告書は、就職活動に向けてのアドバイス、採用試験であった教養試験・専門試験問題、小論文のテーマ、面接内容や実技試験などの内容が記載してあるため、多くの学生が利用している。求人一覧は、エリアごとに保育所関係、幼稚園・こども園関係、施設関係、公務員関係や一般企業関係に分類し、学生が見やすいように就職資料室に掲示し、求人票等の詳細資料はファイリングしている。また、教務学生課にはキャリアコンサルタント1人、ガイダンスカウンセラー1

人の資格所有者が在籍し、就職に関するカウンセリングを実施している。

就職試験対策は、1年生では就職模擬試験、2年生ではオプションにより幼稚園教諭専門試験を加えた保育士就職模擬試験を毎年度1回実施し、学力を全国規模で測っている。試験結果は教職員で共有し、指導に活用している。公務員を目指す学生や受講を希望する学生には、週1回の公務員試験対策講座を開講し、公務員試験の一般教養試験を視野に入れた対策を行っている。ピアノ演奏・弾き歌い、手遊び、絵本の読み聞かせ等の実技、面接や小論文の指導は、各分野の教員が中心となり、個別に対応している。社会人に向けての意識向上として、ハローワークなどの外部講師やOB・OGの講話、卒業前の2年生から1年生への就職活動の体験談などの多様な情報に触れる機会を設けている。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、学生の年齢層がさまざまであり、本学所在地の近隣に在住していない学生が大半を占める。こども学科の就職情報等は所在地及び近隣地域に関するものが大半を占め、通信教育部の在籍学生が利用できる情報が少ないことや、既に園等で勤務している学生も多く、就職情報等を要しない学生も多いため、遠隔地の学生への情報提供として、隔月発刊の機関誌「豊梅（ほうばい）」にて求人情報を掲載している。

#### 【改善の方向性・課題】

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証結果の中で、短期大学生調査と比較した分析結果では、プレゼン力や情報機器の活用に関する項目が全国平均よりも低い水準であった。ICTに関するフォローアップやプレゼン力強化のための授業内容の改善等、組織的な対応の継続も引き続き課題となっている。

学生と教員の距離が近く、クラス担任を中心に、全ての教員がいつでも親身になって学生の質問や相談に対応することが本学の強みである。しかし、姫路キャンパスの設置以降は、キャンパス間の授業に伴う出張により教員が不在にしていることがあるため、オフィスアワーを設定し、シラバスにもオフィスアワーの時間を記載し、学生が質問や相談をしやすい体制を整えている。また、教務システムの機能を活用して、教員と学生、職員と学生が随時連絡の取りあうことのできる体制になっている。しかしながら、学生にとってより相談しやすいオフィスアワーの運用方法や、周知について検討していく必要がある。このように、課題をその都度解消しながら、両キャンパスの発展に努める。

教務委員会を中心にGPAの分布状況を分析し、指導助言の対象となる学期GPAの値を検証していく必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

2-2-1 委員会一覧

2-2-2 GPAに関する規程

### 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 【現状】

本学では、社会人・職業人として求められるマナーや姿勢、コミュニケーション能力を獲得し、社会的責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己表現、他者理解及び自己管理能力を育成するための「総合科目」、保育者としてこどもの教育・保育環境づくり、一人ひとりの特性や発達課題に即した支援、こどもの主体的な活動やこどもにふさわしい生活・遊びの展開、保護者や地域との連携を図れる能力を育成するための「専門教育科目」によって教育課程を編成している。教職課程カリキュラムはコアカリキュラムを踏まえて編成しており、教育課程全体を学生がより主体的に学修できるよう、教育課程における各科目の役割を示すカリキュラムマップやカリキュラムツリーを整備している。これらの科目の単位を取得することにより、2年間の修業年限内で学修成果を満たすことができる。カリキュラムマップ、GPAやその他のさまざまな取り組みを一つにまとめ、学修成果を査定することで、より強力に内部質保証活動に活かし、教育の質を保証していくために、三つの方針を基盤とする評価指標を定めたアセスメントポリシーを策定している。

また、教職課程カリキュラムについて、ICT教育における情報活用能力を育てる教育への対応が十分可能となるよう、教職に関する科目や情報に関する科目のほかに、ICT機器を活用した指導方法について学べるよう編成している。また、各授業科目の授業計画において、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワークを促す工夫を積極的に取り入れている。

教職課程カリキュラム以外の科目において、選択科目として、実習の意義や目的を理解するための独自科目「幼児実習基礎」を設け教職課程の内容を補完している。実習に際しての留意事項で、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての自覚や態度を醸成することを目的としている。また、「キャリアアップⅡ」では、保育現場でのインターンシップを授業内容として含んでいるため、実習前に子どもの成長発達を観察しながら保育者としての関わり方を学び、実習や専門職に就くための資質能力の向上を図っている。

##### 【優れた取組】

こども学科では、シラバスを教務委員会と教務学生課が作成する「シラバス作成要領」に従って作成し、その内容は授業概要、授業科目の目的、学修成果、授業計画、テキスト、参考書、フィードバックの方法、成績評価基準、オフィスアワー、受講者の心構えとメッセージとして準備学習の内容と振り返り学習の内容、授業時間数、科目担当者の実務経験やその概要を記載しており、必要な項目は全て明示している。これらの内容は、教務委員会が本学の学修成果と各科目の学修成果の関連性を点検して

いる。教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、学生便覧にて周知しており、事前指導担当教員や実習委員会、担任及び教務学生課が協働し、履修要件が満たされているかどうかの学習支援を行っている。学生は本学に併設するこうのとり認定こども園での実習のほかに他園での実習も経験している。また、通信教育部のスクーリング時に、ボランティア学生を募り、こうのとり認定こども園の教員を中心に学生の修学中に預かり保育を実施している。これにより、学習場面以外の状況で子どもと関わることで、より広い視野と柔軟な思考を養うことができている。

通信教育部こども学科保育専攻及び幼児専攻では、毎年、全国から科目担当者が集い、授業方針編成会議を開催し、複数人の同一科目担当教員が科目担当者間で次年度の教育課程編成やシラバスやレポート設題、科目試験問題等の協議を行っている。その内容を通信教育事務課の職員が確認し、加筆・修正を依頼するという教職協働過程を経ることによって作成されている。

#### 【改善の方向性・課題】

令和5年度よりCAP制（履修単位制限）を導入し、「豊岡短期大学学則」に1年間及び1学期に履修科目として登録できる単位数の上限を定めている。本学は、2年間で幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する教育課程であり、免許・資格要件を充足するための修得単位数は、卒業要件単位である62単位を大幅に上回る専門教育科目70単位以上となる。また、教育効果を鑑みた各科目の配当年次を検討した結果、多くの科目を1年次に配当している。実質的な学習を促進するために、学生にとって過大な学習量とならないよう、免許要件とCAP制の両立に向けて科目の精選・統合を検討する必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

### 基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携

#### 【現状】

こども学科では、学生の「人間力」を培うことを目的として、社会の一員となるべく各種ボランティア活動を奨励している。授業として「地域ボランティア」を開講しているほか、クラブ活動であるチャイルドアクトクラブ、良恋（よさこい）クラブや音楽クラブといった課外活動を中心として、地域の行事、こども園や社会福祉施設等におけるボランティア活動により地域社会へ貢献している。大学祭では、1日目にさまざまな表現活動を相互発表し合う異世代間交流や学内発表、2日目に食や子ども向けの体験コーナーを通して交流を図る食のフェアを実施している。異世代間交流は平成22年度から行っているが、時代の変化に合わせて実施内容を見直し、併設「こう

のとり認定こども園」園児や地域の文化活動団体から舞台発表できる有志を募り、子ども・保護者・学生との交流を目的としている。学内発表は、普段のクラブ活動の成果を発表する場としている。食のフェアでは、学生模擬店のみならず、地域の方々から多数出店してもらっているほか、子どもが簡単にできる製作体験など、子どもと学生と一緒に楽しめる企画をしている。

#### 【優れた取組】

こども学科では、教育成果等の検証の一つとして、実習先訪問、卒業生の就職先訪問や高等学校訪問の際には、先方の関係者から意見を聴取している。また、こども園や社会福祉施設等との実習情報交換会（資料3-2-1）により、意見交換や情報収集を行っている。これらの意見を日ごろの学生指導や実習指導、各委員会活動の取り組みに反映している。

地域との連携として、大学祭「和花季（わがとき）ひろば」での異世代間交流や食文化交流等の行事を連携して行っている。コロナ禍前では、合同授業としてみてやま学園大学院と本学の学生で構成するグループに分かれ、テーマに応じて情報交換や議論を行い、交流を深めていた。コロナ禍中では合同授業を一時停止し、本学教員が出前授業を実施しているが、コロナの収束後は、合同授業の実施を検討していく必要がある。

#### 【改善の方向性・課題】

本学の教育目標及び学修成果は、社会的通用性があると判断しているが、今後も社会に役立つ人材、ステークホルダーが求める人材を養成するため、社会が求める教育を実施できているか点検を継続する必要がある。そのため、就職先へのアンケート調査、学生の実習受入先との実習情報交換会を実施し、地域社会の意見に基づく教育目標及び学修成果等の検証を行い、必要に応じて改善していく。そして学外の法人格を有した企業又は団体からの有識者を招き、教育・研究等の現況とその独自性について3つのポリシーを踏まえた点検・評価のサイクルを確立し、本学の適切性に係る点検・評価を行っていく必要がある。

#### 【根拠となる資料・データ等】

3-2-1 実習情報交換会

### Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

GPA 制度の導入やカリキュラムマップを基にしたカリキュラムツリーの整理、アセスメントポリシーの策定等、学生にとっても教職員にとっても、学修成果をより正確に把握する仕組みを整備している。これらは、学修成果を把握するためのツールであると同時に、自己点検・評価活動を推進するためのツールである。すなわち、各部署及び各委員会の PDCA 活動、教員による授業改善の PDCA 活動に、これらの新たなツールを追加し、内部質保証を推進していくことが必要である。そのために、それぞれのカリキュラムマップやアセスメントポリシーなどのツール自体を改善していかなければならない。また、それぞれのツールを扱う教職員の意識・知識も絶えずアップデートしていく必要がある。今後も、本学が社会的使命を果たしていくために、学長のリーダーシップのもと、自己点検・評価委員会が中心となってこれまで以上に組織としての改善活動を実施していく。

学外有識者を招聘した教学評価委員会では、3つのポリシーを踏まえた本学の適切性に関する点検及び評価を行っているが、今後も継続して学内外からの幅広い意見を取り入れ、自己点検・評価や教育改善に活かしていく必要がある。

本学は姫路キャンパスの設置に伴い、2つのキャンパスを円滑に運営することが必要なため、オンライン会議を積極的に活用することにより委員会活動を活発化するなど、学長のリーダーシップのもと、教職協働を強化していく。

本学の教育目標及び学修成果は、社会的通用性があると判断しているが、今後も社会に役立つ人材、ステークホルダーが求める人材を養成するため、社会が求める教育を実施できているか点検を継続する必要がある。そのため、就職先へのアンケート調査、学生の実習受入先との実習情報交換会を実施し、地域社会の意見に基づく教育目標及び学修成果等の検証を行い、必要に応じて改善していく。

### Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

一般社団法人全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検評価基準」に基づいて、自己点検・評価委員会が中心となり「教職課程自己点検評価報告書」素案を作成した。その後、教務学生課の協力を得て加筆修正を行い、第一原案を完成させた。その第一原案を自己点検・評価委員会にて検討・修正し、承認されたものを第二原案とした。その第二原案をこども学科教授会（学長を含む）に諮り、承認された。

自己点検・評価委員会は本学の教育、研究の充実と活性化を図り、短期大学の使命を果たすため、教育・研究等の現況とその独自性について、自己点検・評価に関する事項を自主的に調査検討することを目的としている。構成員は学長、学科長、図書館長、所属長、所属責任者としており、各種委員会や事務部門で自己点検・評価した事項を全学的視点から点検・検証を行っている。点検・検証の結果を学長に答申を行い、学長は定期的に教授会に報告し、必要に応じ理事長に報告している。